

久留米

通高 信専

第67号

[JULY 20, 2011]

久留米工業高等専門学校企画主事室
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
TEL:0942-35-9300
<http://www.kurume-nct.ac.jp/>



久留米工業高等専門学校
校長 上田 孝

新入生への言葉

満開の桜の下で皆さんが入学されてから、早くも4か月近くが経ちました。皆さんの高専生活5年間(60月)の約6%が過ぎたわけです。4月の1年生合宿研修で夜須高原青少年自然の家へ出発する前に、皆さんに高専での目標について書いて提出してもらいましたが、その目標に向かって6%進んでいますか?この時点で一度振り返って、設定をより現実的なものにし、その目標に向かって着実に歩んでいけるようにして欲しいと思います。

入学式の式辞の中で、「一日不作、一日不食」(いちじつなさざれば、いちじつくらわず)という中国唐代の高僧である百丈懐海(ひゃくじょうえかい)の言葉を紹介しました。百丈懐海は、百丈清規(ひゃくじょうしんぎ)という禅宗の規則を制定し、禅寺が信者の経済援助や国家の保護に頼らずに、禅僧自らが耕作して食べるという自給自足体制を築きました。自らも率先して規則を守り、高齢になっても毎日農作業等を続けていたため、弟子たちが師の健康を案じて、作業に行けないように道具を隠してしまいました。道具が見つからなかった禅師は、その日は作業をしませんでしたが、食事をとらなかったため、その理由を質した弟子に百丈禅師が言ったのがこの言葉です。すべきことを一日しなければその日の食事はしないという、自らを厳しく戒める姿勢を表した言葉です。

高専生活は高校と大きく異なり、自由に使える時間が多いため、自らをきちんと律することが重要です。勉強について言えば、高専は大学と同様に、学習指導要領はありません。合宿研修の冒頭の講話で述べたように、高専では、指導要領で定められた範囲の内容を学習する、いわばプールで泳ぐのではなく、各分野の知識や技術という大海原を泳いでいくのですから、「教わっていないから分からない」という言い訳は通用しません。興味や関心を持った分野は自分で色々調べて掘り下げ、どんどん先に進んでいく。調べ方や理解できない内容は、先生に尋ねて教えてもらうというような、自ら

学ぶ姿勢が必要です。早い時期にこの姿勢を身につけることが、高専生活で大きな成果を得る上で極めて重要であり、この生涯学習の姿勢こそが、皆さんが卒業して社会に出てからも必要となる資質です。

昨年6月に60億キロの長い宇宙の旅を終えて地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」がその偉業を達成できた背景には、現代の科学技術や数々のトラブルに対応した知恵ばかりでなく、打上げ以降7年間にわたり、来る日も来る日も続けられた毎日の観測と制御の積み重ねがあります。

「継続は力なり」と言われるように、その時々では変化に気づきにくいのですが、長期間続けていけば大きな変化になって表れます。山に登るのも、一步一步は小さな歩みですが、ふもとからの単調で単純な歩みの積み重ねにより、日本一高い富士山や世界最高峰のチョモランマの頂上に到達することができるのです。

目標に向かって着実に歩みを続けていけるようにするには、毎日の生活の中で、そのことを習慣化していくことが大切です。

勉強のはじめの一歩として、1日1回は本を開くこと。読まなくても良いから、とにかく本を開く。できれば1ページ読む。これだけでも習慣化していけば、勉強する態度が段々と身についていくでしょう。綿密なプランを作成して実行することがベストですが、プランを作っただけで満足したり、疲れてしまってプランを実行しないよりは、大まかなプランでも実行することが重要です。

皆さんが、自分の目標や将来の夢に向けて、日々たゆみない努力を続け、充実感や達成感のある実り多い高専生活を過ごされることを願っています。

5主事あいさつ

教務主事あいさつ

馬越 幹男



現在の高専制度が創設されて間もなく50周年を迎えます。この間、高専の卒業生は実践的技術者として産業界から高く評価されて、毎年技術者の約10%を輩出しています。その強さがどこにあるのか考えてみると、もともと理数系が得意で技術者になるんだという目的意識が高い学生が多いこと、早期から専門科目が取り入れられ実験・実習が多いこと、受験に囚われることなく課外活動等の自主的に活動を行える場があることなどに思い当たります。

実験・実習は座学の内容と関連し、その場だけではなくデータを整理し、参考書等を調べ、報告書を作成するという一連の作業があります。その実力は、これらを実行することによって身に付くもので、点数で測れるものではありません。また、自主的な活動は、社会の中で大人としての自立心の育成に大きな役割があり、学校はその場を提供しています。成績が良いか悪いかに関わらず、卒業する頃にはかなり力がついたと実感しますし、卒業生の活躍ぶりを見聞きすると思いがたることが多々あります。

しかし、そういいことばかりではありません。久留米高専は、最も伝統があり、大学的だと言われてきましたし、自負もありましたが、最近ではこのまま社会に出て大丈夫かと思われる学生も目につくようになってきました。社会や産業構造の変化、経済のグローバル化に伴うものもありますが、就職の状況は大変厳しく、また昨年の大学編入者数は例年の半数でした。

学生諸君がこのような結果に一喜一憂したり、漠然とした将来への不安を抱く必要はありませんが、備えあれば憂いなしです。その備えとは、心身の鍛練と日々の勉学です。そのためには、日々の積み重ねが大事で、基礎学力を身につけるために授業を大事にすること、暗記に頼りすぎないこと、勉強の仕方を工夫することの三つを心がけてください。一人ひとりが充実した学生生活を送ることができれば、進路は自ずから開かれ、次の世代の学校をつくることにも繋がります。

学生主事あいさつ

櫻木 功



学生主事室は主に学生さんの福利厚生補導関係を取り扱っています。第一に、学生さんが楽しい学生生活を送れるように、主な行事等（課外活動・クラスマッチ・体育大会・高専祭・音楽祭・予餞会等）を支援・指導しています。特に高専の学生さんには大学入試がないために補講もなく、一般の高等学校の生徒さんに比べると、多くの時間の余裕があります。その余裕時間を各自の知育・体育・徳育に最も適したクラブに所属され、活動されて、信頼できる多くの友人をつくられることをお勧めしています。

第二に、学生の皆さんが楽しい学生生活を維持するには、最低限の規則を守らせる必要があります。すなわち規則を守らない学生の取り締まり・処分の検討を行っています。特に、本校は窃盗、暴力行為に対しては厳しく、また飲酒・喫煙・交通違反でも繰り返した場合は厳しくなります。例えば、本校生の通学手段は自転車通学が630名程度、バイク通学が120名程度、自動車通学が100名程度です。車両通学指導は早朝に担任の先生方の応援を依頼し、適宜取り締まりを実施しています。また、携帯電話やインターネットについてはほとんどの学生が盛んに活用しています。これらの使用に当っては冗談で書いたことが集団的ないじめに繋がることもありますので、相手の立場・心情にも十分に気を配ってください。校則に反する各行為をしないようにお願いします。アルバイトについては本校が工学系で実験等が多く、レポートも多いのでできるだけ避けてください。さらに管理面では盗難に遭わないように、自己管理をしっかりとしつけてください。例えば、自転車には2つ以上の頑丈な鍵、貴重品や現金はバッグや服の中に放置しないで、必ず鍵付きロッカーに保管してください。

第三に、定期的に校内清掃・美化活動や地域での奉仕活動等に積極的に参加し、ボランティア精神を身に付けるように指導していきます。

最後に、世の中がグローバル化及び多様化していく中で、本校が今後益々発展していくにはやはり学生、保護者及び教職員の皆さんが、信頼関係を一層深め、本校の改善に一歩一歩とり組むことが重要であると考えますので、今後とも皆さんのご支援とご協力をよろしくお願いします。

5主事あいさつ

寮務主事あいさつ

江崎 昇二



筑水寮「V200」と「地球一周」

「V200」は、平成20年度に設定した寮の目標で、平成24年度に寮生数を200名にしようというものです。「地球一周」は私の個人的目標で、平成9年から記録し始めたランニング積算距離の到達目標40,000kmです。

実は、2年前も同じタイトルでコメントを書きました。あれから2年、寮生会と一緒に、学生にとって魅力ある寮とは何かを考え、「V200」達成のために様々な対策を講じてきました。予定では、現時点で150名を超えている予定でしたが、残念ながら128名に留まっています。

とはいえ、寮生諸君の協力もあり、寮周辺の環境整備、居室の整備、共用スペース（食堂、風呂、トイレ、補食室、階段等）の一部エアコン導入や美化などを行い、生活環境はずいぶん改善されたと思っています。今年度も、居室エアコン設置、体験入寮制度の導入、ヘルスチェックキャンペーン、前期寮祭（ポーリング&BBQ）、上級生を対象としたテーブルマナー講習会、非常食シミュレーションなども予定しています。

さらに、後期寮祭では韓国の東亜マイスター校との合同企画、来年度には女子寮も設置される予定です。

「地球一周」は、途中若干のトラブルはありましたが、何とか続いています。2年前に約30,000kmであった累積ランニング距離が、現時点で35,000kmを超えました。このまま、故障することなく続けることができれば、3年後には目標を達成できる予定です。寮生から元気をもらいながら、続けていきたいと思っています。

通学生およびその保護者の皆さん。今年度に入っても、寮長の田崎大剛君（制御情報工学科4年）を中心に、様々な改革を行っています。通学生で、寮生活が不安で入寮をためらっている人は、近くの寮生に状況を聞いてみてください。将来エンジニアを目指す皆さんにとって、親元を離れ、寮生活をする事は、将来の財産になりえると思います。

入退寮は月単位で可能です。入寮を希望する人は、寮事務室に申し出てください。「地球一周」より先に、「V200」が達成され、久留米高専がさらに活性化していることを願っています。

専攻科主事あいさつ

松永 崇



今年度から専攻科主事としては2回目であるが、専攻科への思い入れや、最後のご奉公として新たに大任を拝した。学校は学生のためにあるとの信念のもと「学生第一」で、専攻科生が本科学生の模範となり、下級生を引き上げて行くような校風の構築をと考えている。

平成5年4月に九州地区では最初に専攻科が本校に設置され、満18年が経過した。この間学校を取り巻く環境も大きく変化しているが、確立した基礎学力を重視する学校教育と絶えず動き進化する今日的技術との接続を実践教育により行い、社会に出て即戦力となる技術者の育成が、現在なお一層強く求められている。このためには、学校で習う原理・法則、基礎的な知識・技術を理解し持っているだけではだめで、それらを活用・応用して実現可能な解を見出していく能力、すなわちエンジニアリングデザイン能力が要求されている。また、職場や地域社会で多様な人々と仕事をするために必要な基礎力、すなわちコミュニケーション力ならびにチームワーク力が要求されている。学ぶスタイルも、従来の個人で学ぶスタイルからチームの中で、題材、仲間、自分自身との対話を通して学ぶ“学びの共同体”へとシフトしている。このような状況の下、専攻科では、ものづくり創造教育、チーム編成によるPBL教育、長期インターンシップ、コミュニケーション教育、企業との共同教育を充実させてきている。最近では、高専機構が、国際的に活躍できる技術者の養成を図るために、日本企業の海外事業所等において就業体験等行う「海外インターンシッププログラム」を実施しており、本校からも3年間連続して、シンガポール、スイス、アメリカに専攻科生を派遣している。また、英語コミュニケーション能力と国際感覚を涵養するために、国際的な雰囲気の中で英語による研究発表する機会を提供しており、今年度はタイ・バンコクで「Technology for Sustainability（持続発展のための技術）」というテーマでシンポジウムが開催されることになっている。

最後に、ノーベル化学賞の根岸英一さんが「好きな分野を見つけたら、決してあきらめない気持ちで邁進しよう」と若者へのメッセージを語っているが、日本の将来を支えるのは、間違いなく若い青年であり、未知の世界に挑み、自らの資質を向上させ、社会のために行動するタフな人間（高専魂）の育成に取り組みたいと考えている。

5主事あいさつ

企画主事あいさつ

津田 祐輔



企画主事（企画主事室）の業務分担は他の教務、学生、寮務、専攻科と比較しわかり難いと思いますので、業務の説明を行い、挨拶にかえさせて戴きたいと思います。

久留米高専は独立行政法人国立高等専門学校機構に属しており、独立行政法人は中期計画・年度計画を立案し、それらに従って各種の業務を遂行し、自己評価を行う事が義務付けられています。元々、学校業務の多くは、その年度の目標などを持っているものですが、統一した形式でこれらを取りまとめ、外部に公開すると言うところに意義があります。

本企画主事室では、企画委員会を催し、各部署の年度計画を取りまとめ、中間チェックを行い、年度末に自己評価委員会を開催し、その結果を外部に公開しています。尚、本校のホームページの「情報公開」と言う項目に年度計画に関する事柄も含め、各種の校務に関わる情報を公開しています。

ただし、これらの情報公開は言わば「公文書」の類ですので、一般にはわかり辛いものであることは否定できません。そこで、もっと身近な形で学校業務・行事の進捗を皆様にお伝えしているのが、この「高専通信」であり、本校ホームページの「お知らせ情報」であります。企画主事室では各学科・部署、担当事務職員との協力も得て、「高専通信」、ホームページの取りまとめを行っています。

また、本校における国際交流に関する業務を担当しているのも企画主事室です。国際交流は外部からの訪問と、外部に出向く場合との2つがあります。「KOSEN」は世界的に類の少ない教育システムであり、他国にも似たような技術者教育機関がありますがレベル的に日本の「KOSEN」に遠く及ばないところが多いようです。この様な理由で、外国からの高専への訪問者はかなり多く、本主事室ではこれらの訪問の対応を分担しています。また、高専機構全体で企画されている国際交流プログラムへの参加、紹介も行っています。

以上、述べたように本久留米高専の校務の中の、企画主事(室)の業務をご理解いただければ幸いです。

保護者の皆様への公開授業について

教務主事 馬越 幹男

本校では、平成22年度より保護者の皆様を対象にした公開授業を始めました。以前より低学年の保護者の皆様からご要望がありましたので、既に実施している他高専の状況を参考に企画し、平成22年11月24日（水）～26日（金）の3日間実施したことは、保護者の皆様、学生諸君ともご存知のとおりです。この目的は、保護者の皆様に本科の授業を公開することにより、本校の教育に対するご理解を深めていただくとともに、本校の教育内容、方法等を向上させ、学生の授業への取組みを改善することです。

参加者は、1年14名、2年10名、3年24名と3年生までの保護者が多く、合計58名でした。アンケート結果によれば、教員の授業に対する評価は、大変わかりやすかった、分かりやすかったという割合が74%でした。学生の授業に対する態度については、大変真剣であった、真剣であったという評価が72%とほぼ同じでしたが、真剣ではなかったという評価も31%でした。

公開授業の時期としては、やはり新入生の保護者の皆様の関心が一番高いと思われますので、平成23年は新学期早々の4月25日（月）～27日（水）に実施しました。延参加者数は、104名でしたが、予想通り新入生の保護者が76名で新入生の約1/3に上りました。アンケートによる評価については、教員、学生に対してともに88%の良好な結果で、学生の授業態度不良という割合は12%に低下していました。保護者の皆様のご意見、ご要望は、時期、実施曜日、授業、課外活動、清掃等多岐に渡りますが、全体としては概ね好評でしたので、当面はアンケート結果を参考に継続してまいりたいと考えています。

授業は、云うまでもなく本校教育の根幹を成すもので、その充実に向けたたゆまない改善が不可欠です。これまでの学生による授業評価、教員の自己評価に加えて、保護者の皆様への授業公開を授業改善の一助にしたいと考えています。

新任紹介



松本 光広 (まつもと みつひろ)
 職名 制御情報工学科 助教
 (平成23年4月1日付)
 前職 筑波大学大学院博士後期
 課程 大学院生
 抱負 九州という初めての土地、
 初めての教育に戸惑い、ご
 迷惑をお掛けすることもある
 と思いますが、精一杯頑
 張りたいと思いますので、
 よろしく願いいたします。
 趣味 ジョギング、サイクリング、
 登山、献血



宮本 圭一 (みやもと けいいち)
 職名 総務課施設係
 (平成23年4月1日付)
 前職 九州大学病院事務部経理
 課電気係
 抱負 分からないことばかりで、ご
 迷惑をお掛けすると思いま
 すが、早くお役に立てるよう
 に頑張りたいと思います。
 宜しくお願いします。
 趣味 フットサル



藤木 篤 (ふじき あつし)
 職名 一般科目(文科系)助教
 (平成23年4月1日付)
 前職 日本学術振興会特別研究
 員 / コロラド鉱山大学客員
 研究員
 抱負 つい先日赴任したばかりの
 ひよっこですが、これから
 一生懸命頑張って、一日で
 も早く満身に職務をこなせ
 るようになりたいと思いま
 す。よろしく願いいたします。
 趣味 読書、ツーリング



團野 誠寛 (だんの まさひろ)
 職名 総務課財務係
 (平成23年4月1日付)
 前職
 抱負 社会人1年目の新人です。
 まだ業務に不慣れで、ご迷
 惑をお掛けすることがある
 と思いますが、精一杯頑張
 りますので、ご指導ご鞭撻
 のほど宜しくお願いします。
 趣味 旅行、釣り



徳山 徹 (とくやま とおる)
 職名 教育研究支援室第一技術
 グループ
 (平成23年4月1日付)
 前職 九州工業大学情報工学部
 技術部 技術職員
 抱負 前職で学んできた事を生か
 し、さらに高専でより多くの
 事を学んで、久留米高専に
 貢献できるように頑張っ
 ていきたいと思っております、
 ご指導ご鞭撻よろしく願
 いいたします。
 趣味 弓道、バイク、自転車、ドラ
 イブ、バトミントン

新入生の抱負

機械工学科1年
稲富 景

私は、中学三年生の夏の時点で、高専の合格判定が悪くて、少なからず落ち込みました。しかし、あきらめずに勉強をしつづけて、なんとか合格できました。とても嬉しかったことを憶えています。

うちのクラスは男子40人、女子3人で少し不安でしたが、機械科は異様な仲の良さで、“とても楽しい学校生活が始まったな”と4月が終わった時に思いました。途中、あまり楽しくない日がありましたが、今はとても楽しいです。しかし、勉強は難しく頭が痛くなるときもありますが、なんとかついていけています。中間試験も不安でしたが、赤点はとらなかったのでよかったです。

部活にも入りました。文芸部と翔同好会です。入部当時はまだ本格的に活動していませんでしたが、先輩たちは優しいし、おもしろくて、早く放課後にならないかなと、3限目・4限目には考えてしまうほどです。最近、文芸部は文化部発表会に向けて絵や文芸誌の準備をしていて、翔同好会は大会に出す飛行機の数や形を決めました。ようやく本格的にはじまってきて、これからの部活動が楽しみです。

さて、入学してもうすぐ3カ月が経ちますが、すでに1A（1年機械工学科）は仲の良さやテンションが入学して3カ月とは思えない域にまで達しています。これから5年間同じクラスなわけですが、すでにこの状態で、5年生になる頃には一体どうなっているのか想像もつきません。全員で5年生に進級できることを願っておくばかりです。がんばって入学した高専での生活は予想の遥か上をいく‘楽しさ’と‘発見’と‘大変さ’があります。家からここまでくるのに2時間、通学は疲れるし、めんどくさいですが、久留米高専に来ることを思えば頑張っています。これからも、もっと色々なことを知って、大変なことやつらいことにもぶちあたりつつ楽しく過ごせればいいなと思っています。

電気電子工学科1年
綱島 健太

僕にとって、久留米高専に入学するとき、久留米高専の自由な校風というものが、入学を決める大きな理由の一つになりました。そして、入学したときは、みんな緊張していましたが、夜須での新入生合宿研修で、クラスに慣れてきました。

そんな中で、初めての定期試験が始まりました。内容は中学の時と違い、授業をちゃんと受けていけば解ける問題ではなく、難しいものでした。赤点を取った人もたくさんいて、平均点が低い教科も増えました。この時、僕はいろんな先生が言っていた「高専は自ら進んで勉強しないとイケない。」という言葉の意味が分かりました。課題や宿題があまりないのは自ら勉強させるためであり、自由な校風というものも、自ら勉強に努めることを前提としてのことだと僕は思います。

部活動も、中学の時からしているバレーボール部に入部したのですが、自分たちで練習メニューを工夫していてすごいと思いました。個性的な先輩もいて、部活もとてもおもしろいので、部活を続けながら、自ら進んで勉強をしていこうと思います。

Kurume National College of Technology

制御情報工学科1年
古川 唯人

僕の久留米高専に入学しての抱負は勉強面が一つ、部活面が一つ、生活面が二つあります。

勉強面では予習と復習をすることです。高専の勉強は中学にくらべて難易度が高く自主勉強しなければついていくことができないからです。

部活面では技術を身につけることです。僕はプログラミングラボ部に入っています。理由は僕の将来の夢がプログラマーになることだからです。そのために必要なプログラミングの技術や用語などを覚えていきたいと思っています。

生活面では規則正しい生活と整理整頓をすることです。中学の頃、規則正しい生活をしておらず、よく病気にかかっていたり、夜型になってしまっていたりしていたので高専では改善したいと思います。また、僕は昔から整理整頓がとても苦手でよく部屋を散らかしていました。寮の部屋は二人部屋でそれほど大きくありません。故に、整理整頓をしないとルームメイトに迷惑をかけてしまうので、整理整頓を頑張っていこうと思います。

生物応用化学科1年
藤 浩平

私は「人生の方程式」である「結果」＝「考え方」×「熱意」×「能力」という方程式を大切に実行していきたい。この式のなかでもっとも重要なのは「考え方」というファクターだ。そのポイントは掛け算である点にある。例えば、頭脳明晰で九十点の「能力」をもった人がいたとする。しかし、この人がその「能力」を鼻にかけて努力を怠り、三十点の「熱意」しか発揮しなかったとすれば、その積は二千七百点にとどまる。一方頭の回転は人並みで六十点くらいの「能力」しか持たない人が、才能がないからと自覚して、そのぶんを努力でカバーしようと、九十点を超えるような、あふれるほどの「熱意」をもって何か取り組んだとすれば、その積は五千四百点になる。さらに、そこに「考え方」の点数が掛け合わされる。この「考え方」がもっとも重要なのは、それが、方向性を表しているからだ。つまり考え方には、いい考えもあれば悪い考えもある。プラスの方向に向かってもてる熱意や能力を発揮するのもあれば、マイナスの方向へ向けてその熱意や能力を使う人もいるのだ。したがって、この「考え方」という要素にだけはマイナス点も存在し、熱意や能力の点数が高くて、この「考え方」がマイナスであったら、掛け算の答えもマイナスになってしまう。才能に恵まれた人が情熱を傾けて、何かに励んでも、そもそも「考え方」がマイナス方向に働いているので、けっしてよい「結果」は得られないということだ。科学者は「考え方」を大切にしなければならない。この「考え方」をこれからもっと大切にし、それがプラスの方向にもっていきけるように頑張りたいと思う。

新入生の抱負

材料工学科1年 三池 友樹

僕はこの学校に入学できて、今とても幸せです。なぜなら材料工学科での生活がとても楽しく、目標を持って過ごすことができているからです。入学してからたくさんの新しい友達ができ、一日一日がとても新鮮です。

僕は初めて自分で選んだこの進路を悔いのないように大事に過ごしたいと思います。そのための一つが部活動です。僕はバレーボール部に所属していて、プレーだけでなく、先輩との関係や一年生として規律正しい行動を学んでいます。今、部活動は僕にとって重要な生活の一部になっています。今後も勉強と部活動を両立させて、充実した学校生活を送っていきたいです。さらに、この学校で学べるということに誇りを持って、何事も中途半端にならないよう一生懸命に取り組みたいと思います。

これから専門的な科目も増えてきますが、自分に自信を持ってひとつひとつクリアしていきたいです。そして、この学校で経験したことを自分の将来につなげることができたらよいと思います。

留学生紹介



材料工学科3年 カロカロ ハルナス

初めまして、私はインドネシアから来た留学生のカロカロです。昨年、2010年の4月から一年間、日本語学校教育東京センターで日本語を学び、2011年4月に久留米高専の材料工学科三年生に編入学することとなりました。そして、高専を卒業してから日本の大学にも入りたと思っています。

日本に留学できるとは夢にも思わなかったです。私は立派な人間ではないので、留学をきっかけにしっかり勉強したいと思っています。インドネシアは日本ほど科学技術が発達していない国です。そのため、日本の最新の技術を修得し、インドネシアの工業化に少しでも役立つ人材になるため日本への留学を決意しました。

私の趣味は水泳をすることやギターを弾くことです。しかし、私はそれ以外の他のスポーツにも興味を持っているので、高専ではバドミントン部に入っています。初めて部活に入りましたが、本当に楽しいです。

私は日本に来てまだ一年間ぐらいしか経っていないので、日本の分からないことがたくさんあると思います。久留米高専の学生として、勉強に励むことはもちろんのこと、日本の文化や伝統、習慣などを深く学びたいと思います。そして、多くの友達を作り、みんなと一緒に楽しみながら勉強したり遊んだりする時間を過ごしたいと思います。よろしくお願いします。



材料工学科3年 ワンネン

私はラオスから来た留学生のワンネンです。平成22年4月から東京日本語教育センターで一年間日本語を学び、平成23年4月から久留米高専の材料工学科3年に編入学することになりました。高専を卒業したら、日本の大学にも入りたいと思います。

私の趣味は音楽を聴くことです。また、サッカーをすることが好きです。

私は小さいとき、日本についていろいろなことを勉強して日本に興味を持ち、日本で勉強することを希望しました。私は日本に住んでまだ一年間ぐらいなので、日本語もまだ下手で日本の分からないことがたくさんあります。だから、皆さんにいろいろな日本のことを教えて欲しいと思います。久留米高専では勉強だけでなく、たくさんの友達を作ったり、日本の文化や習慣などを習って、貴重な経験をしたいと思います。

皆さんと一緒に楽しく時間を過ごしたいと思いますので、よろしくお願いします。



生物応用化学科4年 ネイル イフサン

私はインドネシアのプカンバルから来た留学生のネイルイフサンです。私は日本の漫画を読むこと、アニメや映画を見るのが好きです。そのきっかけでいつか日本に行きたいと思いました。さらに、インドネシアでは日本製品は人気があるのでますます日本のことに興味を持って日本の技術を学びたいと思いました。そして、高専に留学するために東京日本語学校教育センターで一年間日本語を学んできました。そこを卒業してから福島高専の物質工学科に3年生として編入しました。東日本大地震や原発事故のため、福島高専から久留米高専に転校することになりました。最初は悩んでいて、途中で転校したら授業を受けることや、友達を作れるかどうか心配でしたが、たくさんの人に相談して最後に久留米高専に転校すると決めました。

私は、まだ一週間しか久留米高専で勉強していませんがクラスメートは面白くて、先生方も優しいから私の悩みが少しずつ消えていくと感じています。これからも、皆さんと一緒に高専生活を楽しく過ごしたいと思いますのでよろしくお願いします。

平成23年度九州沖縄地区高専大会日程表

担当校	種目	会場	7月						
			8日(金)	9日(土)	10日(日)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	
久留米工業高等専門学校	陸上競技	久留米総合スポーツセンター 県立陸上競技場		○					
	ソフトテニス	北九州市北九州穴生ドーム		○					
	バドミントン	久留米市みづま総合体育館		○					
	水泳	福岡県立総合プール(アクシオン福岡)					○		
	ハンドボール	・久留米市みづま総合体育館 ・福岡県管営筑後広域公園体育館					○	○	
佐世保工業高等専門学校	バスケットボール(男・女)	・佐世保市体育文化館 (男子第1日、男女第2日) ・佐世保総合グラウンド体育館(女子第1日)		○					
	卓球	小佐々スポーツセンター		○					
	剣道	長崎県立武道館							○
北九州工業高等専門学校	サッカー	・北九州市本城陸上競技場 ・鞘ヶ谷競技場		○					
	柔道	北九州市若松武道場		○					
	バレーボール(男・女)	北九州市総合体育館		○					
	テニス	熊本県民総合運動公園パークドーム					○	○	
沖縄工業高等専門学校	硬式野球	・名護市管球場 ・宜野座村野球場					○	○	○
	ラグビーフットボール	宗像市グロバーアリーナ		○					
担当校	種目	会場	11月12日(土)	13日(日)	14日(月)	15日(火)			

平成23年度役職者・担任等一覧

- ◆ 教務主事 馬越
- ◆ 教務主事補 石丸、平川、小田、梶、酒井
- ◆ 学生主事 櫻木
- ◆ 学生主事補 山本哲、黒木、松田、矢野、江島、赤塚
- ◆ 寮務主事 江崎
- ◆ 寮務主事補 中尾、辻、米永、榑崎
- ◆ 専攻科主事 松永
- ◆ 専攻科主事補 丸山、石井、平野、越地
- ◆ 企画主事 津田
- ◆ 企画主事補 中武、中野、周、金城
- ◆ 学科長 原田(機)、池田(電)、江頭(制)、中尾(生)、田中慎(材)、福田か(一文)、山崎(一理)
- ◆ 図書館長 津田
- ◆ 図書館長補 中野
- ◆ 図書主幹 中野
- ◆ 総合情報センター長 江頭
- ◆ 総合情報センター長補 原
- ◆ 総合情報センター員 馬場、寺尾
- ◆ 情報処理センター長 大崎
- ◆ 産学民連携テクノセンター長 藤田
- ◆ 産学民連携テクノセンター 橋村、松島、渡邊、松尾、越地 部門マネージャー 権藤、田中宗
- ◆ 学生相談室長 筈木
- ◆ 学生相談室員 山口、久保、岡本、菰田
- ◆ 遣伝子組換え実験安全主任者 筈木
- ◆ 放射線取扱主任者 奥山
- ◆ X線作業主任者 奥山
- ◆ 就職主任 富岡(統括)、和泉、宮崎、綾部、笹栗
- ◆ 留学生指導教員 松井、田中大、大崎、富岡、濱上、山本郁、中畑
- ◆ 学級担任教員

学科	1	2	3	4	5
機械工学科	菰田	小宮	南山	田中大	松井
電気電子工学科	高橋	金城	中島	大崎	長田
制御情報工学科	宮本久	岡本	川口	熊丸	松島
生物応用化学科	辻	中畑	泉本	富岡	渡邊
材料工学科	龍頭	谷	山本郁	濱上	久保

専攻	1	2
機械、電気、化学工学科専攻	越地	丸山
物質工学科専攻	石井	平野

チャリティーライブ

軽音部顧問 津田 祐輔 (記)
檜崎 亮

「Kuru Rock Fes 2011 ～商店街の変～地域交流をメインとした学生×社会人×商店街による久留米初の音楽イベント！」が本年、久留米市の六角堂広場で3月12日(土)～3月13日(日)に催されることになり、久留米高専軽音部も実行委員会のメンバーとして早くから準備を進めて来ました。私達、顧問も案内を受けて、バンドのライブが行われる3月13日(日)には見学に行こうと話していましたが、なんとその前々日に大事故が発生しました。3月11日午後2時46分、宮城県・三陸沖でマグニチュード8.8の大地震が発生、その後の大惨事は皆様の良くご存じのところでもあります。

さて、このロック・ライブはどうなるのだろうか、と心配していたところ、軽音部・部長(5S安達君)から早速、メールがあり、急遽、3月12日(土)の前夜祭は中止し、3月13日(日)はチャリティーコンサートに変更するとの事。2日後の3月13日に六角堂に向いてみると、パンフレット、進行など、見事にチャリティーライブに変更となっていました。この2日間の実行委員会の学生の行動力には非常に感心するところでもあります。

ライブは国会議員・鳩山邦夫氏の挨拶なども間にはさみ、順調に進行しました。場内には募金箱と千羽鶴のコーナーが設置され、本校の軽音部員も、受け付けや会場案内、募金の呼びかけなどに協力しました。本校以外の参加大学は久留米大学、久留米工業大学、九州産業大学、筑紫女学園大学で、その他、一般市民の方のバンドも出演しました。久留米高専からは4つのバンドが出演し日頃の練習の成果を発揮してくれました。

数多くのミュージシャンを輩出した久留米は世代を問わずバンド演奏が活発で、本年度部員数76名の久留米高専・軽音部も大変、活動が活発です。70年代に日本のフォーク・ロックが本格的に興隆した際、レベルの高い久留米高専の高専祭バンドステージに大学時代に演奏で呼ばれて、大変、嬉しかったと言う話を福岡の元プロミュージシャンから聞いたこともあります。また、現在の「けいおん!」は親の世代の影響が大きく、父娘ともに久留米高専・軽音部に所属と言う方を知っていますし、ライブに出向くと一家総出、弁当持参で応援に来ているという微笑ましい光景に出くわしたりで、「ロック=反抗・不良」、「エレキギターは校則で禁止(津田の出身中学での実話です)」と言う時代からすると隔絶たるものがあります。

この様に、今回の音楽イベントは、新しい世代のバンド青年とも言える、学生達を中心にチャリティーライブとして無事に終了しました。久留米の各大学の実行委員の皆さん、久留米高専・軽音部の皆さん、本当にご苦労様でした。また、震災に遭われた地域の復興を心から願っております。



吹奏楽部チャリティーコンサート

吹奏楽部顧問 宮崎 浩一

吹奏楽部は、3月21日、春分の日14時から本校ウェブホールにて、卒業コンサートを開催しました。このコンサートは、吹奏楽部部員の卒業生を送るために、毎年3月下旬に開催しています。今年のコンサートでは、卒業生を送るだけでなく、3月11日に起こった未曾有の国難「東北地方太平洋沖地震に伴う東日本大震災」の復興支援活動として、義援金の募金を呼びかけました。この募金活動は、吹奏楽部員でそのとき機械工学科1年の石橋典子さんの「東北の人たちのために、今自分たちができることをしよう。」という呼びかけにより始まりました。一人の学生から声が出て、他の学生も賛同し、共に積極的に行動していくことに、学生達を非常に頼もしく思いました。この活動は、卒業コンサートでの募金箱の設置だけでなく、本校前のお店SKYヒロでも募金箱の設置をお願いし、西鉄久留米駅近くの街頭での募金活動も行い、最終的に140,060円の義援金が集まり、日本赤十字社へ送金しました。御協力戴いた方々の温かいお心遣いに、部員一同大変喜んでいました。卒業コンサートでは、卒業生一人一人が選んだ思い深い曲や一度演奏してみたかった曲など10曲を選曲し、吹奏楽オリジナルやポップスなど様々なジャンルの曲を演奏し、会場に足を運んでいただいた高専生、保護者、OB・OGの方に楽しんでいただきました。吹奏楽部の部員は、今回の卒業コンサートのために毎日練習を重ねてきて、在校生は卒業生に感謝し、卒業生も在校生に感謝しながら演奏すると同時に、今回は募金活動を通して自ら行動することの大切さや人の温かい心に触れ、もう一つ良い経験ができたコンサートとなりました。今後、この経験が学生生活にも生かされ、吹奏楽部においてもハーモニーをまとめ上げて一つの良い音楽を作り上げていくための糧になるものと思います。

♪ 卒業コンサートプログラム ♪

吹奏楽のための第二組曲 第一楽章マーチ

BLUE RIDGE SAGA

吹奏楽のための風之舞

Anything Goes!

青春の輝き

虹

私のお気に入り

The Spirit of St. Louis

最後に、東北地方・太平洋沖地震に伴い、被災された皆さま方から心から御見舞い申し上げますと共に、一刻も早い復興を祈念しております。

吹奏楽部部員一同

クラスマッチ

学生会体育局
電気電子工学科4年 山崎 裕太

5月11日(水)から5月12日(木)にかけて、クラスマッチが行われました。今回は悪天候により、残念ながら外で行われる競技のサッカーと長縄飛びは中止となりました。室内競技である、バレーボール、バスケットボール、女子ドッジボールは予定通りに行われました。

バレーボールは第二体育館で行われ、結果は1位3M、2位3A、3位4Eでした。決勝戦では疲れが出てしまったのかあっという間に結果が決まってしまいましたが、準決勝では両チームのパワーが均衡しており、白熱した戦いとなっていました。

バスケットボールは第一体育館で学年別に行われ、結果は1年生1位1C、2位1A、2年生1位2A、2位2E、3年生1位3A、2位3E、4年生1位4C、2位4A、5年生1位5S、2位5Mでした。学年ごとに激しくぶつかり合い盛り上がっていました。

女子ドッジボールも第一体育館で行われ、結果は1位「くぼんぬ」チーム、2位「BOSS AG」チームでした。女性同士の戦いですが、こちらも白熱した戦いとなっていました。

悪天候ではありましたが、各競技大変盛り上がりがありました。後期のクラスマッチには、外の競技でも盛り上がりを見せていただきたいと思います。



音楽祭を終えて

第42回音楽祭実行委員会委員長
生物応用化学科4年 高橋 史也

6月25日、本校第1体育館にて「第42回音楽祭一体育館で待ってる、17:30くらいまで待ってる。」が開催されました。当日は実に4年ぶりとなる晴天に恵まれ、およそ2ヶ月間準備に心血を注いできた実行委員の顔も晴れ晴れとしておりました。猛暑にも関わらず入場者数は昨年に比べ大幅に増加、受付において500人超の来場者を確認しております。毎年恒例の「1年生コンテスト」も殊更の盛り上がりを見せ、暑い中懸命に歌い踊る1年生の姿に、音楽祭運営に関わってきた身としては、込み上げるものがありました。実行委員会企画の各種イベントも大成功、特に「スマブラ大会」なるゲームトーナメントでは会場の熱気は最高潮、一体となる会場を肌で感じました。もちろんそこは音楽祭、各音楽系部活動も負けておりませんでした。トップを飾ったのは吹奏楽部、美しいフルートのハーモニーには思わず鳥肌が立ってしまいました。

その後もバンドが観客をステージ際に集めヒートアップ、ピアノ同好会によるソロピアノは熱中症が心配される会場に安らぎを、ダンスサークルはアツいビートにのせ圧巻のパフォーマンスを披露してくれました。実に2ヶ月の準備期間を経て成功を収めた音楽祭。その2ヶ月には過去42年間実行委員会が培ってきた音楽祭運営に関するノウハウと、現実行委員のアイデアが詰まっております。音楽祭を終えて思うことは、音楽祭が決して音楽系部活動の自己満足ではないこと、高専祭にも負けないエネルギーを持っているということです。



本号掲載記事の無断転載を禁止します